

前期課程(春季入学試験)

2024 年 2 月 16 日

科目名	受験番号	
日本語	氏名	

- 1 次のひらがなの文章を、漢字・カタカナにできるところを漢字・カタカナにし、読みやすい日本語にしてください。(20 点)

「ふかくじつなみらいのために、げんざいをぎせいにするあのざんこくなきょういくをどうかんがえたらいいのか」とさげんだのは、『えみーる』をあらわして、きんだいきょういくがくのさきがけとなったじゃん・じゃっく・るそーである。いっけんげんざいのがっこうきょういくにもつうようしそうなこのげんせつのはいけい、「ざんこくなきょういく」とはどのようなことをさしているのでしょうか。このさげびのいみをりかいするためには、るそーがいきたじゅうはちせいきのよーろっぱしゃかいにおいて、どのようなきょういくがおこなわれていたのかをしるひつようがある。

るそーいぜんにおけるせいおうのきょういくかんのちゅうかくにあったのは、にんげんはおしえこむべきそんざいであるとするかんがえであった。おさないこどもは、どうぶつてきなそんざいであり、これをちょうきょうすることによっていちにんまえのにんげんにそだてあげるのだ。きわめてたんじゅんにいえば、るそーいぜんのせいおうしゃかいでは、こうしたちょうきょうてきなきょういくかんがしゅりゅうであったといわれている。

まなぶというこういがじゅんすいにのうりよくやぎじゅつのしゅうとくとしてかんがえられていたせいおうしゃかいとことなり、にっぽんではまなぶことをつうじてどうとくのじっせんしゃになることにもくてきがあるとかんねんされ、まなぶこととどうとくがふそくふりのかんけいにあった。てらこやにおいてたいぼつがほとんどそんざいしなかったのは、しゅたいてきにまなぶことができるのうりよくのかんようをじゅうしたしゅたいてきながくしゅうかんのけっかであった。

- 2 次の①～⑩の文には正しくない漢字の使い方をしているものが五つあります。その番号(①～⑩)を選び、正しくない漢字と正しい漢字を書いてください。(4 点×5=20 点)

- |                     |           |
|---------------------|-----------|
| ① 名演技に <u>関</u> 心する | ② 事実と対照する |
| ③ 父の事業を警鐘する         | ④ 交通規制を敷く |
| ⑤ 名月を観賞する           | ⑥ 国を修める   |
| ⑦ 江戸の仇を長崎で打つ        | ⑧ 仕事を請ける  |
| ⑨ 天ぷらを上げる           | ⑩ 眠気に冒される |

- 3 次の①～⑤の下線部の読みを書いてください。(4 点×5=20 点)

- ① 愛敬のあるしぐさ
- ② 混迷の一途をたどった
- ③ 弊社にご案内する
- ④ 枚挙に暇がない
- ⑤ 「やせ蛙負けるな一茶これにあり」(小林一茶の句)

- 4 次の①～⑤の下線部に該当する漢字を書いてください。(4 点×5=20 点)

- |                            |                              |
|----------------------------|------------------------------|
| ① 京の鬼門には <u>えんりゃく</u> じがある | ② 豊臣秀吉が <u>ひょうろう</u> 攻めで勝利した |
| ③ あの役者は <u>かつぶく</u> がいい    | ④ 東大寺で大仏 <u>かいげん</u> 供養が行われた |
| ⑤ 良心の <u>かしゃく</u> を感じる     |                              |

- 5 次の①～⑤の( )に動詞を入れて、常体と敬語表現のペアにしてください。(4 点×5=20 点)

- 例：先生が、言った ・先生が、(おっしゃ)った
- |                    |                   |
|--------------------|-------------------|
| ① 好きなものを食べてください    | ・好きなものを( )ください    |
| ② 今から説明いたします       | ・今からご説明( )ます      |
| ③ 先生の家に行きます        | ・先生のお宅に( )ます      |
| ④ つまらない物ですが貰ってください | ・つまらない物ですが( )ください |
| ⑤ どうぞ先に寝てください      | ・どうぞ先に( )ください     |

前期課程(春季入学試験)

2024 年 2 月 16 日

科 目 名	受験番号	採 点 欄
日 本 語	氏 名	

1					
	番号	正 ない 字 しく 漢		正 漢 しい 字	
	番号	正 ない 字 しく 漢		正 漢 しい 字	
	番号	正 ない 字 しく 漢		正 漢 しい 字	
	番号	正 ない 字 しく 漢		正 漢 しい 字	
2	番号	正 ない 字 しく 漢		正 漢 しい 字	
3	①	②	③	④	⑤ う
4	①	②	③	④	⑤
5	①	②	③	④	⑤

科目名	受験番号
書学書道史	氏名

I 「共通問題」次の①～⑳の空欄を埋めなさい。(3点×20＝60点)

A 清末に西湖の湖畔に創設された(①)は、金石篆刻の學術団体で、初代社長に就任したのは(②)である。

B (③)の自筆稿本「書譜」には、用紙の折山に当たって出来た(④)と呼ばれるところが多くある。

C 唐の太宗撰の雁塔聖教序と(⑤)撰の雁塔聖教序記の両碑は、(⑥)が晩年に揮毫したもので、いまも西安の慈恩寺大雁塔に存在する。

D フランス人ペリオが甘肃省の(⑦)石窟藏経洞で発見した(⑧)は、唐の太宗撰ならびに書の行書碑の唐拓を剪装し卷子に表装したものである。

E 一九七二年に山東省臨沂県から出土した(⑨)漢簡には、『孫氏兵法』『孫臏兵法』など兵家の文献が多く、一九七五年に湖北省雲夢県城の墓から出土した雲夢(⑩)秦簡には秦律関係の文書が多い。

F 建久九年に讓位した(⑪)天皇は、以降ほとんど毎年熊野三山に参詣した。その途次に催した歌会にあたって揮毫された懷紙を(⑫)と通称する。藤原俊成の子で『明月記』を遺した(⑬)も建仁元年の御幸に供奉している。

G (⑭)は、大宰大弐に任ぜられた(⑮)が、長門国赤間が関から藤原誠信に宛てた書状である。三跡の一人で(⑭)に続く(⑯)は、日記『権記』を遺している。

H 藤原伊行は書論『(⑰)』の著者として知られている。伊行の自筆本には『和漢朗詠集』を上下二巻に書写した完本、(⑱)がある。

I 明治一三年に來日した(⑲)との交流をきっかけに北派の書に傾倒した(⑳)は、近藤雪竹や比田井天來ら多くの門弟を輩出して、近現代書壇に大きな影響をもたらした。

II 「選択問題」次の①～⑳の事項から二つを選び、それぞれ一五〇字以内で知るところを述べなさい。

(20点×2＝40点)

- ① 鍾繇      ② 楚簡      ③ 董其昌      ④ 孔子廟堂碑      ⑤ 万歳通天進帖  
⑥ 章草      ⑦ 石経      ⑧ 羅振玉      ⑨ 馬王堆帛書      ⑩ 李柏尺牘稿  
⑪ 紺紙銀字華嚴経      ⑫ 石山切      ⑬ 粘葉装      ⑭ 平等院鳳凰堂色紙形      ⑮ 書流  
⑯ 多胡碑      ⑰ 御家流      ⑱ 副島蒼海      ⑲ 墨場必携      ⑳ 尾上柴舟



問題

二〇二四年度 大東文化大学大学院【春季】入学試験

文学研究科 書道学専攻（博士課程前期課程）

二〇二四年二月十六日

科目名	
創作	
氏名	受験番号
採点欄	

2 創作 次の〔Ⅰ〕～〔Ⅳ〕の中から一題を選び、半切に書きなさい。

落款は「大東書」または「大東かく」と書き、赤フェルトペン等で、印の位置、形、大きさを示しなさい（受験番号を左下に鉛筆で記入すること）。

〔Ⅰ〕次の漢詩を半切に書きなさい。ただし、書体・書風・構成は自由。

烟雨楼臺春似畫 水雲窗戶畫生寒
--------------------

〔Ⅱ〕次の漢詩を半切に書きなさい。ただし、書体・書風・構成は自由。

尋眞誤入蓬萊島 香風不動松花老 采芝何處未歸來 白雲滿地無人掃
--

〔Ⅲ〕次の和歌を半切に書きなさい。ただし、漢字と仮名の変換、変体仮名の使用、書風、構成は自由。

秋霧のまよひも晴るゝ山のはに 傾くよなき有明の月
-----------------------------

〔Ⅳ〕次の言葉を半切に書きなさい。ただし、漢字と仮名の変換、書風、構成は自由。

行成の手跡は筆に任せて書かれたると見えたり
-----------------------

問題

二〇二四年度大東文化大学大学院【春季】入学試験

文学研究科 書道学専攻（博士課程前期課程）

二〇二四年二月十六日

科目名

臨書

受験  
番号

氏名

採点欄

1 臨書 次の〔I〕～〔VI〕の中から一題を選び、半紙に書きなさい。

〔I〕 楷書 「高貞碑」 傚隣閣而來儀



〔II〕 行草書 「李思訓碑」 僊俛轉揚州



〔III〕 隸書 「馬圈前漢簡牘」 平梁賢尹寬



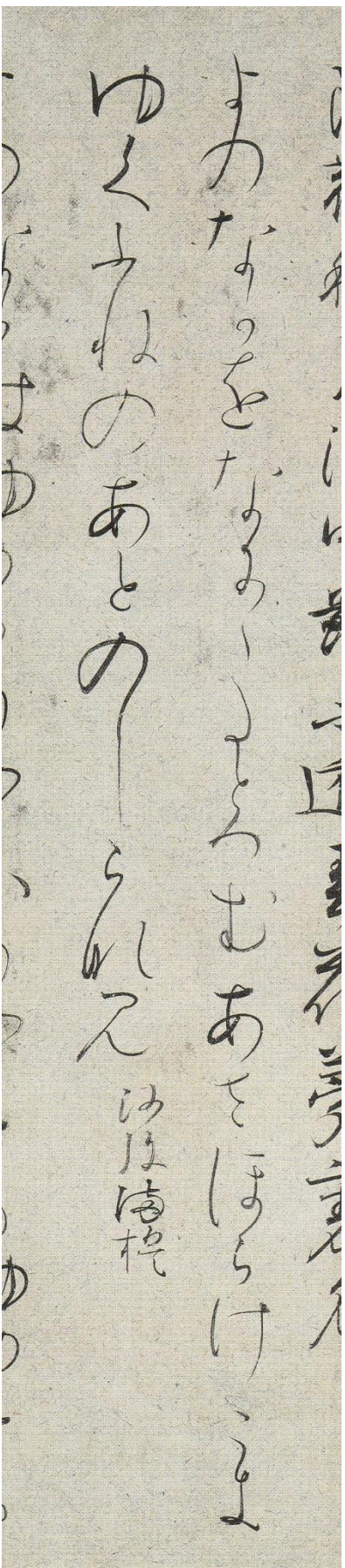


〔Ⅴ〕仮名 伝藤原行成「法輪寺切」

よのなかをなにとたへむあさぼらけ

こぎゆくふねのあとのしらなみ

沙弥満誓



〔Ⅵ〕仮名 伝西行「白河切」

ふゆのよのみづにながるあしかもの

うきよのなかにいくよへぬらん

